



京都府における ネギハモグリバエ別系統の発生

京都府農林水産技術センター農林センター **徳丸** **晋**
 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター **うえ** **すぎ** **りゅう** **じ**
上 **杉** **龍** **士**

はじめに

ネギハモグリバエ *Liriomyza chinensis* KATO (双翅目：ハモグリバエ科) (図-1) は、幼虫がネギ(岡崎・會田, 1951; 村井, 1953), タマネギ, ラッキョウ(友永ら, 1960) およびニラ(山下, 2002)の葉に白い筋状の潜孔を形成し、加害する。タマネギでは、葉だけでなく鱗片も加害する(北海道立総合研究機構 中央農業試験場病虫部予察診断グループ, 2015)。

本種は、2000年代初めに京都府(徳丸・岡留, 2004), 福岡県(山村, 2004) および大分県(甲斐, 2002)の葉ネギ栽培で多発し、その被害が問題になったが、2016年ころから従来の被害様相とは異なるネギ葉全体が白化し(図-2), 甚発生圃場も見られるようになった(図-3)。被害様相が変化した原因の一つとして、従来とは遺伝的に異なる系統の発生が疑われた。そこで、ネギ圃場から採集した幼虫を実験室内で羽化させ、ミトコンドリアCOI領域612塩基の解析を行った結果、従来の遺伝子型を持つ個体(2011年7月16日に京都府京都市のネギから採集した個体と同型、以下、A系統と略記)に加えて、

それとは8塩基異なる遺伝子型を持つ個体(以下、B系統と略記)を確認した(図-4)。本種B系統の存在に関する知見は、世界初である。

京都府農林水産技術センターでは、本系統の京都府における発生生態について調査を行っている。本稿ではこれまでに得られた知見について報告する。

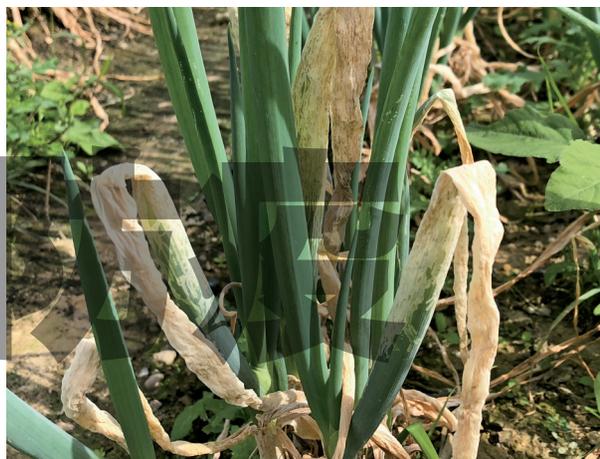


図-2 ネギハモグリバエ別系統によるネギ全体が白化した被害株



図-1 ネギハモグリバエ成虫



図-3 ネギハモグリバエ別系統の甚発生圃場

Occurrence of Genotype of *Liriomyza chinensis* KATO in Kyoto Prefecture. By Susumu TOKUMARU and Ryuji UESUGI

(キーワード：ネギハモグリバエ, 系統, 発生, ネギ, 発育, 京都府)